

生活の香りのする町並み～暮らし優先の町並み保存～ ～三重県関町～

関町の町並み保存に向けた活動は、昭和 55 年から当時の町長のリーダーシップのもと本格化し、国の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けました。最初は、地元住民の町並み保存に対する理解を得ることに苦慮しましたが、地道な修理・修復活動を継続しつつ、対外的な評価を得ることで、徐々に理解を深めていくことに成功しました。

近年では、「関宿町並み保存会」、「関宿案内ボランティアの会」といった住民組織がソフト面からの活動を支えるまでになり、関宿の町並みを訪れる訪問者の数は急速に増加しています。

一方、むやみに観光地化するのではなく、生活の場としての町並み保存を目指し、生活の香りのする生きた町並みを後世に伝えようと、住民が町並みに親しみ楽しむための取り組みも積極的に展開しています。



三重県関町 町並み保存地区（重要伝統的建造物群保存地区）

出典：関町ホームページ

【歴史的な町並みへの注目】

関宿のある三重県関町は、古代より東西を結ぶ交通の要衝であり、福井県の愛発（あらかち）、岐阜県の不破とともに日本三関の一つ鈴鹿関がおかれたところとしても有名です。

東海道 47 番目の宿場として整備された関宿は、江戸時代を通じて繁栄し、明治に入っても往来の旅人は増加しました。しかし、明治期半ばの鉄道開通により宿場町としての機能は衰退し、戦後には身回品を扱う小売店舗を主とした在郷の中心商業地、さらに現在は周辺都市に勤めるサラリーマン世帯が多数を占める住宅地へと性格を変えていきました。

東海道沿線が戦災や戦後の開発によって大きく姿を変えていく中で、唯一関宿が東海道の宿場町の景観を残していたこともあり、昭和 50 年代に入り、当時の町長がリーダーシップを発揮し、町並み保存の動きが本格化することになりました。



関宿の町並み

出典：関町教育委員会パンフレット



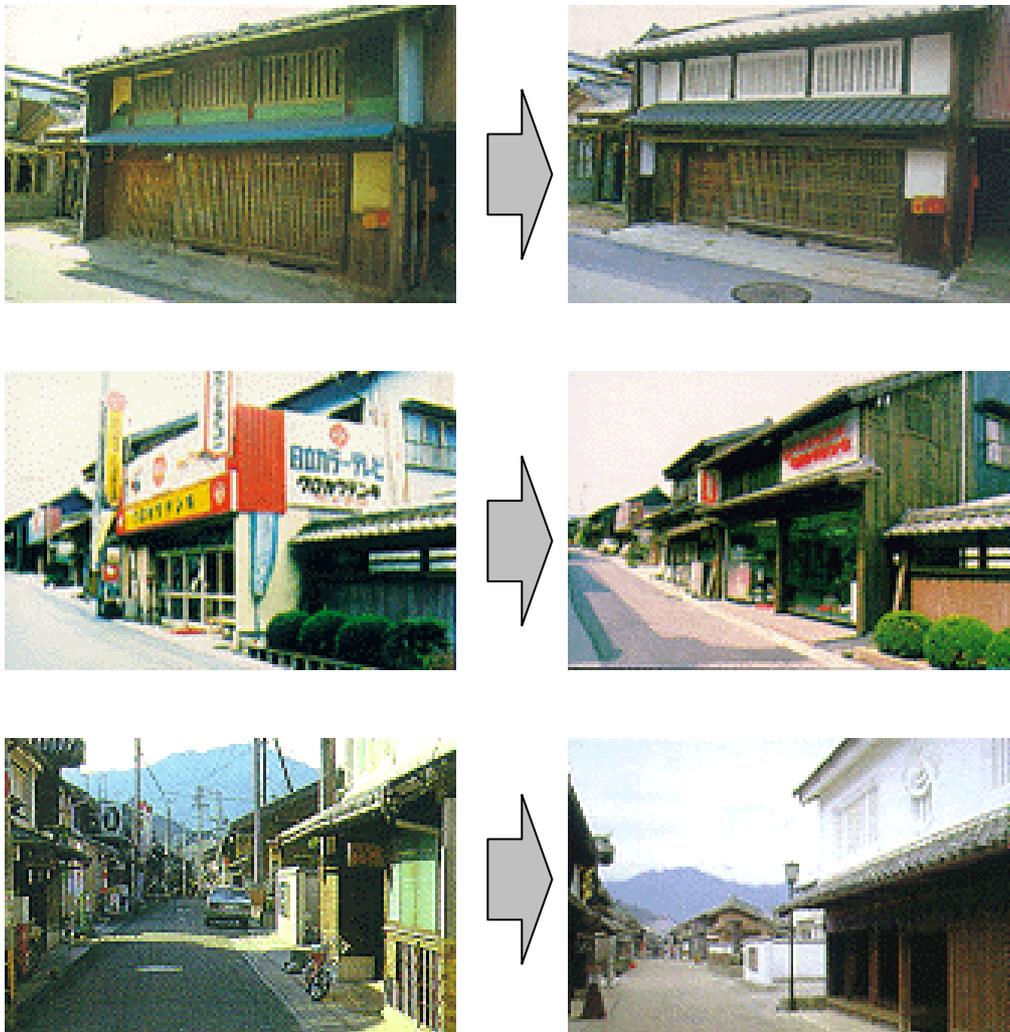
関地蔵院（国重要文化財）

関宿の町並みのシンボリック的存在

【生きた町並み保存を】

関宿の町並み保存の大きな特徴は、そこが居住者の生活の場となっている点です。町並みや伝統文化は、そこに暮らす人々の生活とともに受け継がれていくものであるとの考え方が基本となっているため、観光地化を目指していないのです。生活の場としての空間整備が第一であり、生活環境整備と町並み保存を両立させる「生活の香りのする町並み保存～生きた町並み保存」をまちづくりの方向性としています。

保存地区内にある約 400 棟のうち江戸時代後期から明治時代にかけての町屋が 200 棟以上あり、今後も、居住者の理解を得ながら保存修復工事を続け、また、新しい建造物についても、周囲の町並みと調和するよう働きかけを続けていきます。



関宿における修景の様子

【様々なパートナーシップと地域の内発的な取り組み】

行政主導で始められた関宿の町並み保存でしたが、民間パワーが活動の一翼を担う段階へと移行してきています。現在は、住民団体の組織化を進め、「関宿町並み保存会」、「関宿案内ボランティアの会」が設立・運営されています。「関宿案内ボランティアの会」は、地域住民の暮らしを守るという意識を大切にしており、ボランティアが住民と観光客の間に立って未然にトラブルを防ぎ、住民の間から信頼を得ています。

また、生活者に支持される町並み保存をめざした取り組みもすすんでいます。平成9年度に住民参加型のワークショップを通じて設計された小公園「百六里庭」は、子どもたちの遊び場がないとの地元の要望に応えたものであり、関宿にある二つの資料館も、単に観光客を受け入れているだけではなく、関宿町並み保存会の学習会、関宿案内ボランティアの会の研修、小中学生の郷土学習など、地元住民の活動の場として活用されています。



関宿案内ボランティアの会



百六里庭（小公園）



関宿旅籠玉屋歴史資料館



関まちなみ資料館



町並みに親しむ様々なイベント